

Voice

伊藤病院だより
SUMMER

2018年6月1日発行 第62号 東京都渋谷区神宮前4-3-6 伊藤病院広報誌委員会



代々木公園 しあわせの像

病院からの おしらせ

医療の国際化に向けて

◆アジア太平洋内分秘会議(APEC)

アジア太平洋内分秘会議(APEC: Annual Meeting of the Asia-Pacific Endocrine Conference)は、アジア太平洋地域の内分泌疾患の診療と研究にたずさわっている医師や研究者が集まり、それぞれの研究成果を発表し内分秘学の向上と発展に貢献することを目的としています。

1988年にシンガポールで第1回会議が開催されて以来、毎年アジアのさまざまな国々で会議が行われ、昨年は当院の北川亘診療技術部部長がインドネシア・バリ島で開催しました。今回は3月16日～17日にベトナム・ハノイで第29回アジア太平洋内分秘会議が行われました。

当院からは、伊藤公一院長、長濱充二外科部長、北川亘診療技術部部長、ヘイムス規予美外科医師、田中智章外科医師、石垣貴之外科医師が参加しました。ヘイムス医師は「当院で経験したまれな甲状腺腫瘍である胸腺様分化を示す癌(CASTLE)」の詳細を、田中医師は「バセドウ病の気管狭窄」についてを、石垣医師は「甲状腺癌再発症例のサイバーナイフの有効性」についての発表を行いました。また、北川部長が特別講演「甲状腺腫瘍の新しいWHO分類」の座長を務めました。

発表後は現地の医師と日本の医師との活発な質疑応答が行われました。

2014年より伊藤院長がAPEC理事長を務めており、伊藤病院に学会事務局がおかれております。APECに関する情報は伊藤病院ホームページにアクセスして御覧いただけます。

今後も、伊藤病院における臨床研究成果をアジア太平洋の諸国に情報発信し、アジア太平洋地域の内分泌医療の発展に向けて積極的に参加していきます。



北川亘診療技術部部長



ヘイムス規予美医師



田中智章医師



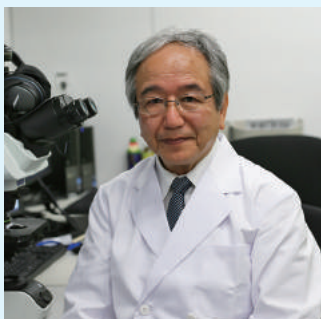
石垣貴之医師

加藤良平先生のご紹介

加藤良平先生(山梨大学名誉教授)が、病理診断科科长として当院に入職されました。

病理医は直接、患者様と接する機会はまれですが、腫瘍の良性・悪性の判断に欠かせない細胞診検査や、手術で摘出した腫瘍の最終診断など、実際診療に密接に関わっております。

加藤先生は病理学の中でも、特に



甲状腺疾患を専門に診断・研究をされており、岩手医科大学で活躍、英国ウェールズ大学、ケンブリッジ大学での研究員も経て、山梨大学医学部教授を務められました。また、甲状腺癌取り扱い規約 病理委員長、WHO分類2018の著者として知られ、日本甲状腺外科学会、日本病理学会、日本組織細胞化学会の会長も歴任されています。

これまでも非常勤医師として当院の病理診断に参画しておりましたが、今回の常勤勤務を機に、診断のみならず、学術研究面の御指導も頂きつつ、甲状腺疾患専門病院として、さらなる医療の質向上に取り組んでいくつもりです。

「甲状腺疾患を極める」を発刊しました

創立80周年を機に、日々の診療や研究成果など、当院が培って参りました専門診療について、伊藤院長監修のもと、杉野副院長を中心に全診療スタッフで書籍にまとめました。

甲状腺の病気は、特徴的な症状が少なく、患者様ご本人もその存在に気づかずに過ごしてしまうケースが多々存在します。実際、当院に来院される患者様も、半数はかかりつけ医の先生方に診断を受けたり、健康診断で異常が見つかった方です。当院では、独自のシステムを開発し、いただいた紹介状について、患者様の検査結果などを添えてお返事をお送りするなど、診療連携の先生方との関係を重視しています。

このたびの書籍で、当院でどのような診療をご提供しているかを知っていただき、日々ご協力くださっている診療連携の先生方に、当院への信頼を深めていただけたら幸いです。



「甲状腺の病気の治し方」新版発行のご案内

伊藤公一院長監修の「新版 甲状腺の病気の治し方」が発行されました。

「甲状腺の病気の治し方」が刊行されてから、13刷を重ねて15年ぶりの新版刊行となりますが、この間、検査技術・精度の向上による診断・治療方法の工夫も進み、また妊娠・出産と甲状腺の関係も研究が進んでおります。これらの変化を盛り込み、甲状腺の働きから病気のメカニズムと検査、治療方法や日常生活面でのケアまで、分かりやすくまとめております。本書籍が患者様、そしてご家族が甲状腺の病気への理解を深める一助となりましたら幸いです。

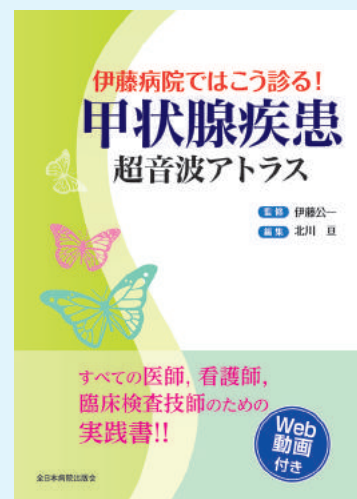
甲状腺疾患 超音波アトラスが刊行されました

伊藤病院 臨床検査室室長 宮崎直子

伊藤病院創立80周年を迎えた節目に「伊藤病院ではこう診る！甲状腺疾患 超音波アトラス」が構想から約2年をかけ、診療技術部部长 北川 亘医師の指導のもと伊藤公一院長監修にて今年2月に刊行されました。この超音波アトラスは、当院の診療技術部に所属する臨床検査技師と診療放射線技師が全員かわり、総力をあげて執筆しました。

発案当初は、当院で甲状腺超音波検査を担当する技師が“いつでも質の高い同じ検査を患者様に提供できるよう”病院内の研修の際に使用する教科書を作ろうというものでした。ここからさらに発展させ、当院に限らず甲状腺超音波検査に携わる多くの方々にもご活用いただけるような超音波アトラスを目指し、この度刊行することができました。

当院において日々多くの甲状腺超音波検査を担当する技師だからこそ得られた経験的な知識やコツを当院だけの財産にするのではなく、広く医療現場で活用して頂くため「現場からのコツ」として紹介しています。また、甲状腺超音波検査以外の甲状腺疾患に関連する検査情報なども掲載いたしました。この当院手作りの教科書を新たな出発点として、甲状腺疾患専門病院が提供する信頼頂ける甲状腺超音波検査が実施できるよう技師一同、精進して参ります。



新版 甲状腺の病気の治し方

監修：伊藤公一
定価：1,300円+税
発行：講談社
全国の書店のほか、当院売店でも販売しております。

伊藤病院研究会を開催しました

3月3日に、第49回 伊藤病院研究会を六本木アカデミーヒルズで開催しました。

この会は、その時々々の甲状腺疾患にかかわる診療上の課題について、当院で集積された大規模な臨床データを解析し、最新の知見や新しい研究成果を発表する場として、1977年に始まりました。以来、当院職員はもちろん、全国から甲状腺疾患の研究・診療に携わっている先生方をお招きして開催しております。今年は院外からお集まりになった90名ほどの方を含め、270名が会場に集まる中、外科からは正木千恵医師が、内科からは國井葉医師が下記のテーマを発表し、活発な意見交換が行われました。



1. 甲状腺癌における分子標的治療(外科 正木千恵医師)

甲状腺がんは、他のがんと比べて進行が遅く、おとなしいがんがほとんどです。

しかし、少数ではありますが遠くの臓器に転移をしたり、急速に増大するものがあり、その場合には手術とともにアイソトープ治療を行います。分子標的薬は、これらの治療の効果が乏しい場合の治療法として、2014年に承認されました。

一方、分子標的薬には特有の副作用があり、副作用に応じて休薬や減量をしながら内服が続けられるかが課題となります。

分子標的薬が登場してから4年になりますが、いつからこの治療を始めるべきか、治療の有効性、副作用対策などについて、当院での治療実績とともに今後の展望を発表しました。



2. HLAから見たバセドウ病と橋本病の病因の違い(内科 國井葉医師)

橋本病で通院中の方がバセドウ病に変わる場合や、バセドウ病の方が寛解後に甲状腺機能低下症になる場合があります。しかし、その原因や頻度については、論文でもほとんど報告されておられません。バセドウ病と橋本病の症状は正反対ですが、ともに自己免疫が原因となっておくる病気です。そのため、ヒトの免疫に関わる重要な分子であるHLAが病因に関係しているのではないかとされておりまして。

今回、初診で来院された患者様の病状を追跡し、橋本病からバセドウ病に変わった方の頻度や、変わることを予測できる因子がないか、最初からバセドウ病の方との違いはあるか、そして遺伝的因子の面から橋本病とバセドウ病を明確に分けることができるのか、研究結果を発表しました。



学会活動

ピックアップ 日本内分泌学会学術集会

伊藤病院 内科 國井葉

さる4月26日から28日の3日間、九州の宮崎市において、第91回日本内分泌学会学術集会が開催されました。

内分泌学は、ホルモンの役割や病気をあつかう学問分野です。ホルモンは、甲状腺ホルモンはしかり、下垂体ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン、ステロイドホルモンなど数多くあり、身体の維持、種の保存を担っています。そしてこれらの一つ一つのホルモンは独立したものだけではなく、互いに影響を与えあっていることもあり、内分泌学は大変広範囲な、興味深い学問です。

学会では甲状腺専門病院として、他の内分泌学の先生から意見を求められることもあり、また我々が他の内分泌学を学ぶことで視野を広げ、患者様の診療にあたることができます。

医学の世界は日進月歩、常に知識を更新していく必要があります。今回の学会で学んだより良い治療方法、治療薬の知識を臨床に活かしていけるよう努めていきます。

最後に、連休前の学会とあり、外来担当医師の休診や変更等で患者様にはご迷惑をお掛けしました。



北川 亘 診療技術部長



渡邊奈津子 内科医長



大江秀美 医師



國井葉 医師



鈴木菜美 医師



鈴木美穂 医師



関山ちひろ 医師



蛭間真梨乃 医師

発表演題

北川 亘	甲状腺境界病変(NIFTP)の細胞診と超音波所見について
渡邊奈津子	バセドウ病に対する131I内用療法後のTRAb上昇に関与する因子の検討
大江秀美	大量ピオチン内服中に甲状腺中毒症パターンの検査結果を示した一例
國井 葉	橋本病の経過観察中に発症するバセドウ病についての検討
鈴木菜美	軽症から中等症バセドウ病に対するMMIおよびKI単独治療効果の比較
鈴木美穂	小児の甲状腺重量測定
関山ちひろ	同時期に無痛性甲状腺炎を発症した一卵性双生児の姉妹例
蛭間真梨乃	数年間バセドウ病の治療を行っていた最中にTSBAb強陽性と判明したものの甲状腺機能低下症を伴わず経過している1例

特別講演

吉村 弘	内分泌救急への対応 甲状腺疾患
吉原 愛	(潜在性)甲状腺機能低下症と不妊、妊娠転帰について (甲状腺専門医の立場から)

座長

渡邊奈津子	甲状腺
吉原 愛	甲状腺

講演活動

ピックアップ 院長が「当院のISO9001への取り組み」について講演しました

2月16日、福岡市で開催された「ISOマネジメントシステム価値向上をめざして」講演会において、伊藤院長が当院のISO9001への取り組みについて講演をしました。

講演会は、公益財団法人 日本適合性認定協会(JAB)が、ISOマネジメントシステム導入による企業の成長事例や改善事例を広く紹介し、第三者評価の役割や導入のメリットを周知することを目的として主催し、当日はISO導入を検討している企業の経営者層70余名の方が参加しました。

JABが初めて開催した講演会でしたが、当院は2016年11月に「日本マネジメントシステム認証機関協議会(JACB)」より、「認証機関からみた有効活用事例集」の取材を受けた際、ISO9001を活用した新規医療サービス、内部監査、外国人患者への対応などが高評価され、医療機関では当院のみが選ばれました。

ちなみに、個々の企業に対して第三者評価を行う団体が「マネジメントシステム認証機関」で、JABは、その認証機関を評価する上位団体に位置します。

よって今回、講演を果たしたことは極めて光栄なことであり、今後のISO活用について、大きな励みとなりました。



伊藤院長が東京浅草ロータリークラブで講演しました

伊藤院長が東京浅草ロータリークラブにて、4月2日に「日本の医学教育」をテーマに講演しました。

日本では大学の医学部に入学し、一般教養から基礎医学・臨床医学、臨床実習を6年間かけて学び、医師国家試験に合格することで医師となることができます。その後、2004年にスタートした新し

超音波専門医制度研修指定施設に認定されました

伊藤病院 診療技術部部长 北川亘

超音波検査は痛みがなく、放射線被ばくのないことから甲状腺疾患の診断に欠かせないファーストチョイスの検査法です。伊藤病院では、患者様に年間約12万件の超音波検査をさせていただいております。このたび、日本超音波医学会の超音波専門医制度研修指定施設に申請を行い、認定施設として審査に合格いたしました。

認定施設は①日本超音波医学会認定の指導医や専門医、超音波指導検査士が一定数以上勤務し、充分な指導体制があること、②超音波専門医研修カリキュラムに準じた研修が可能であること、③十分な超音波検査件数、ベット数、入院・外来患者数、生検数及び手術数を有していること、のすべての要件を満たす必要があります。また、5年ごとに指定の更新審査を受けることになっております。

2018年4月4日現在で全国に496施設が認定されていますが、多くの認定施設は大学の附属病院や総合病院であり、甲状腺疾患のみを診療する病院で認定されている施設はほとんどありません。全国の認定施設の中で、甲状腺超音波検査のリーダーシップを発揮できるように、超音波検査の技術と診断能力の向上にむけて、今後も日々精進していきたいと思っております。



い臨床研修制度に基づき、幅広い診療科目について学ぶ2年間の臨床研修が義務づけられております。

講演では、様々な業種の方々に医学教育の歴史とその変遷から、医師不足、地域・診療科目の医師の偏在の問題など、医療界におけるさまざまな課題と取り組みについてご紹介しました。



よく『上の血圧が高くて』や、『下の血圧が高かった』など耳にしますが、血圧とはそもそも何を表しているのでしょうか？

簡単に言うと、血圧とは心臓から送り出された血液が動脈の内壁を押す力のことです。心臓は、ポンプのように収縮と拡張を繰り返して全身に血液を送り出しているのです。動脈の中の圧も、心臓の収縮、拡張に応じて上がったり下がったりします。動脈の圧が心臓の収縮により最高に達したときの値がいわゆる上の血圧で別名「最高血圧または収縮期血圧」、心臓の拡張により最低に達したときの値が下の血圧で別名「最低血圧または拡張期血圧」と呼びます。

●血圧が高いと何が問題なの？

高血圧状態を長期間放置すると動脈硬化(動脈が固くなる事)を招き、脳出血や脳梗塞、心筋梗塞や心不全・腎不全など多くの命に関わる病気の原因になります。血圧が著しく高ければ吐き気や頭痛などの原因になりますが、たいていは無症状の事が多く、自分が高血圧であることに気がついていない場合が多いです。重大な病気になってからでは遅いので、毎日体重を測定するのと同じように、血圧も毎日測定してみるとよいと思います。

●血圧はいつ測ればよいの？

『白衣高血圧』という言葉聞いた事があると思います。診察室に入って医師の白衣を見ると、緊張してリラックスした家で測る血圧よりも高くなる事です。これは本当の血圧ではなく、『白衣高血圧』と呼ばれています。このように、血圧は一日を通して変動しています。『高血圧治療ガイドライン2014』によると基準値は、診察室血圧では140/90mmHg以上、家庭血圧では135/85mmHg以上とその差異を加味した数値となっています。診察室で測る一回の血圧よりも、リラックスした普段の血圧が高い方が問題なのです(これを『仮面高血圧』と呼びます)。そこで当

院では血圧が高い患者様には血圧手帳をお渡し、家庭で測定して手帳を持ってきていただき、診療の手助けにしています。

では、家庭でいつ血圧を測定すればよいのでしょうか？朝起床後1時間以内で排尿後、または就寝前に座位で1～2分安静後に測定するようにするとよいと思います。

よく血圧を2回測ると値が違うのでどちらの値を書けばよいのですか？と質問を受けます。複数回測定できるのであれば安定した値の2回の平均値をとることになっています。朝からそんなゆっくりと血圧を測定している時間はないとおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、お休みの朝など時間にゆとりがある時にでも測定をしてみたいかがでしょうか？

●甲状腺の病気だと、血圧は高くなるの？

バセドウ病(甲状腺ホルモンが高い方)以外は、「NO」です。

甲状腺ホルモンが高いと、心臓の収縮する勢いが強いいため、上の血圧は高くなります。ですが、バセドウ病でもきちんと内服加療して甲状腺ホルモンが正常化すると、血圧も元通りの値になります。このように病気が原因で血圧が高くなることもあり、これを『二次性高血圧症』と呼びます。バセドウ病以外にも、腎動脈狭窄症や副腎からホルモンがたくさん出る病気の原因性アルドステロン症、褐色細胞腫などもあり、このような病気は手術により高血圧の改善が期待できます。

しかしながら、高血圧症の約90%を占めているのは、原因を特定できない高血圧症で、これを『本態性高血圧症』と呼びます。生活習慣が原因のため、いわゆる生活習慣病と言われています。

次号では、原因とその対策についてお話ししたいと思います。

がん治療認定医について

本邦におけるがん診療の発展と進歩を促し、国民の福祉に貢献し、これらに携わる医師等の研究の向上を図ることを目的に日本がん治療認定医機構(Japanese Board of Cancer Therapy)が2006年に設立されました。

“がん治療認定医”は、“がん治療の共通基盤となる臨床腫瘍学の知識およびその実践を支える基本的技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師である”と位置づけられており、以下の要件をみたした医師が、研修や試験を受けて認定されます。

- ① がん治療の全相(初期診断から終末期医療まで)における標準的な医療内容に関して説明責任が果たせる。
- ② 外科治療、薬物療法、放射線療法など各々の専門領域において、その標準的治療に対し、指導医・専門医との連携のもとに適正医療の継続に協力できる医師と認定するに必要不可欠な知識、医療経験を有する。
- ③ 外科治療、薬物療法、放射線療法など各々の専門領域において、先端医療(臨床開発研究)の内容が理解できる。

当院は、日本がん治療認定医機構の認定研修施設となっており、北川巨診療技術部部長をはじめとし、鈴木章史医師、友田智哲医師、藪田智範医師、正木千恵医師、田中智章医師が、がん治療認定医の資格を有し、日常診療にあたっております。

当院が専門としている甲状腺がんの治療は、手術だけではなく、放射性ヨウ素内用療法、分子標的薬、外照射、化学療法など多岐にわたります。がん医療は今も、この時間も新たに進化しています。“何が最適な治療なのか”を患者様と相談しながら決定していきたいと考えております。なにか不安な点があれば遠慮なくご相談ください。



伊藤院長が日本甲状腺外科学会より感謝状をいただきました

2011年に当院隣地ビル内に日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会事務局が移転し、それから内分泌外科学会事務局は1年の間、甲状腺外科学会事務局は今年3月まで設置され、当院もご協力しておりました。これについて、日本甲状腺外科学会より感謝状をいただきました。

日本甲状腺外科学会は、1968年に発足した甲状腺外科検討会を前身とする歴史を持つ学会です。内科・病理・放射線科など診療科の枠を超えた会員が参加しており、同様に甲状腺に関わる会員が参加している日本内分泌外科学会と合流が検討されてきました。6月には、伊藤院長が日本内分泌外科学会総会(学術集会)の会長を務めますが、今年を最後に両学会が合流し、10月に「一般社団法人 日本内分泌外科学会」が設立されることが決まっております。



伊藤院長が和歌山県甲状腺疾患研究会で特別講演を行いました

3月22日に和歌山県立医科大学附属病院で開催された「和歌山県甲状腺疾患研究会」において、伊藤院長が特別講演を行いました。

当日は、和歌山県立医科大学の先生方から、分子標的薬治療とアブレーションについての講演が行われ、続いて同大学教授の赤水尚史先生座長のもと、伊藤院長が「甲状腺癌の最新治療」をテーマに、当院で取り組んでいる分子標的薬治療とアブレーションについて、治療症例や治療実績を交えてご紹介しました。

伊藤病院研究会開催の記事でもご紹介しておりますが、甲状腺がんに対する分子標的薬は承認されてからまだ日が浅く、より高い治療効果を求めて各施設で服薬方法や副作用の予防・対応等について研究がなされております。今後も、当院での研究成果について積極的に情報発信してまいります。



第12回東京都医学検査学会で優秀演題賞を受賞しました

伊藤病院 臨床検査室 中村奈月

当院は2010年5月にISO9001の認証を取得し、その後、臨床検査室が2013年11月にISO15189の認定を取得しました。

ISOとは、国際標準化機構の略称で、様々な分野の標準化を推進し、国際規格の策定を行っている国際機関です。このISOにおいて臨床検査室に特化したものがISO15189になります。

臨床検査室がISO15189の認定を取得したことにより、品質保証された検査結果は国際的に通用することになります。

今回、ISO15189を運用する中で、より日常業務に沿った監査が行えるよう内部監査方法を年度の計画段階から見直しをして改善を試みました。そして改善後の有効性について臨床検査室職員にアンケートを実施し、その結果を「内部監査の変遷と取り組みについて」としてまとめ、2016年10月2日に開催された第12回東京都医学検査学会で発表致しました。この発表内容が評価され優秀演題賞をいただくことができ、第13回東京都医学検査学会において表彰されました。

今回の発表を通して、ISO15189の認定を継続していくうえで、臨床検査室全体で内部監査について意識を高めることが大変重要であることを改めて学びました。

これからも品質保証された結果を医師や他職種そして患者様に提供するため、臨床検査室職員一同一丸となってさらに精進していきたいと思っております。



受賞した中村技師(左)と第12回東京都医学検査学会学会長を務めた宮崎臨床検査室室長(右)

甲状腺手術におけるエネルギーデバイス安全使用講習会

4月10日に、当院で「甲状腺手術におけるエネルギーデバイス安全使用講習会」が開催されました。

この講習会は、オリンパスメディカルサイエンス販売株式会社が主催し、手術時に組織の切り離しと血管の封



止を同時に行うことができる同社のエネルギーデバイスを安全かつ有効に使用方法を学ぶことを目的に企画されたものです。北川巨診療技術部部長が講師を務め、患者様のご病状に応じた手術の術式の選択方法やエネルギーデバイスを使用した手術症例を交えて、デバイスを使用する利点や留意事項などについてご説明しました。今回が初回となる講習会でしたが、講演後にはデバイスだけでなく甲状腺の手術に関して幅広い質疑応答が行われました。

この度のプログラムが、参加された先生方の日々の診療の一助となりましたら幸いです。

鈴木菜美医師が研究奨励賞を受賞しました

2月3日に第34回 甲状腺病態生理研究会が東京で開催されました。この研究会は主に関東・東北地区の甲状腺専門医が集まり、日々の研究成果を報告する場であるとともに、若い研究者の育成も目的として開催されています。

当院から、鈴木菜美医師が「軽症から中等症バセドウ病に対するメルカゾールおよび無機ヨウ素単独治療効果の比較」を、蛭間医師が「バセドウ病診断後TSBAb強陽性が判明したものの甲状腺機能亢進または正常が持続した2例」をテーマに発表を行い、鈴木菜美医師が研究奨励賞を受賞いたしました。



バセドウ病治療をより安全に効果的に行うことができないか、というテーマをもとに開始した研究ですが、多くの先生方のご指導・ご協力により今回の発表に至りました。研究奨励賞を頂くこととなり、日常臨床だけでなく研究にも益々励んで参りたい所存です。」(鈴木)

表参道寄り道スポット

GOMAYA KUKI

今 回は暑い季節にぴったり、ごまアイス専門店のご紹介です。オシャレでありながら、どこか落ちつくお店。それもそのはず、実はこちらのお店、創業が明治19年というかなり老舗のごまメーカー「九鬼産業」が手がけるごまアイス専門店なのです。



●超特濃アイス

老舗店ならではの伝統あるごまをたっぷりを使用した世界一濃いごまアイス超特濃は、1つあたりなんと約9000粒のごまが使用されています。

その名の通り超濃厚で、まさにごまそのものをいただいているような濃さ。とっても美味しいです。

カウンター横には「追いごま」と「追いごま油」が置かれていて、自由に追加することが出来ます。

追いごまをかければ、ごまの食感が加わりまた違った味が楽しめます。

追いごま油をかけると、...！なかなか馴染みがないですが、これが本当に美味しい。油っぽさは一切無く、ごまの香ばしい香りが加わりより一層美味しく頂けます。

●アイス天ぷら

高級天ぷら店でも使用されている九鬼金白純正ごま油で揚げたアイ

ス天ぷら。アイスの天ぷらはなかなか食べる機会が少ないというだけでも心が踊ります。

サクッとした衣の中には、濃厚なごまアイス。衣は温かいのにアイスは溶けることなくしっかりと味わえます。

粒ごまをたっぷりまとった「ザクザク衣のごまアイス天ぷら」も香ばしくてオススメです。

どちらの商品もテイクアウトが可能です。

他にも、お店のカウンターで頂けるイートインメニューもございます。

当院からはお散歩にちょうど良い距離ですので、ぜひほっと一息、濃厚なごまアイスを味わいにお立ち寄りください。



カップアイス 500円(税込)
6種のごまアイスから
2種類お選び下さい



ITO HOSPITAL
伊藤病院

A1 表参道駅
A2 表参道駅



お持ち帰り用カップアイス
540円(税込)



ザクザク衣のごまアイス天ぷら
550円(税込)



GOMAYA KUKIの和風パフェ
1,000円(税込)

お店の方から一言


「GOMAYA KUKI」は創業132年を誇る胡麻の老舗メーカー九鬼産業(三重県四日市市)が原宿にオープンしたごまアイス専門店です。世界一濃厚なアイスを目指し、全6種類のアイスはどれもこだわりの品ばかり、中でも、自慢の一品である「くる 超特濃」は、香り高い濃厚なごまの味わいとすっきりとした味わいを楽しめます。お召し上がりになるときは是非「追いごま油」「追いごま」をかけてより一層ごまの香りをお楽しみ下さい。

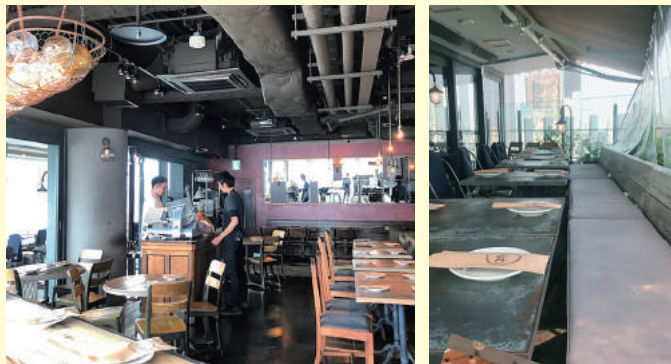
店名 GOMAYA KUKI(ゴマヤクキ)
住所 渋谷区神宮前4-26-22 原宿Hビル1F
TEL 080-7961-8516
営業時間 11:00~19:00
定休日 無休(年末年始除き)
アクセス 伊藤病院より徒歩7分
明治神宮前駅エレベーター専用出口より徒歩2分



表参道ランチ&グルメ情報

PIZZERIA CANTERA

 伊藤病院を出て原宿方面へ行き、明治通りを渋谷方面へ歩くとガラス張りのおしゃれなビル、Qプラザ原宿があります。今回は、このビルの9階にあるPIZZERIA CANTERA(ピッツェリア カンテラ)さんをご紹介します。



入店してすぐ目に飛び込んでくるのは、イタリアのナポリから輸入された巨大なピザ釜。その横には、大きなBarカウンターがあります。少し奥へ進むと、外の景色が目前に広がり、木目を活かした居心地の良い空間が広がっています。席はカウンター・テーブル・テラスで100席程あります。これからの時期におすすめなのは、東西両側にあるテラス席です。それぞれ、外苑前・六本木方面と明治神宮・代々木公園方面の眺望が楽しめる席になっています。

平日のランチメニューは、ピザランチ(1,250円)、パスタランチ(1,080円)、サラダランチ(1,250円)、メインランチ(1,480円)があります。ピザランチとパスタランチは月ごとにメニューが変わる4種類の中から1つを選び、さらにサラダ・ドリンク(紅茶orコーヒー)・ドルチェがついてきます。

お店のおすすめは国産小麦「春よ恋」を使用した、全粒粉ピザが食べられるピザランチです。全粒粉とは小麦の表皮、胚芽、胚乳をすべて粉にしたもので、胚乳だけをいれる通常的小麦粉と比べ栄養価が高く、食物繊維や鉄分、ビタミンB1の含有量も高いことが特長です。小麦は店内の石臼で外皮のまま製粉することで、グルテンを限りなく省いた仕上がりになっており、独特の香ばしい香りとモチっとした食感が楽しめます。また、お店のサラダは食材にこだわり、毎朝三浦半島や今治の契約農家から届いた新鮮な無農薬野菜を使用しているため、野菜本来の甘みを感じることができます。

気持ち良い風が感じられる景色の良いテラス席で、美味しいランチ



マルゲリータ



篠島



国産マルゲリータ

ピザランチ(サラダ、ドリンク、ドルチェ付) 1250円(税込)

はいかがでしょうか。また、夜には店内の照明が暗くなり、おしゃれな空間へと変わります。テラス席から見える夜景もとても綺麗なため、ランチだけではなく、ディナーもおすすめです。

ご来院の際や待ち時間、原宿方面へ散策される際には、是非PIZZERIA CANTERAさんへお立ち寄りください。



お店の方から一言
Pizzeria CANTEAでは、開放的な二つのテラスをご用意しております。東側テラスでは東京タワーと、スカイツリーが見え、西側テラスは、富士山が見える緑豊かなお席です。当店のお勧めは【北海道産 春よ恋】を使用した、全粒粉生地のPIZZA。全粒粉ならではの、豊かな香りとモチっとした食感が食欲をそそります。ランチでは、1080円から気軽にピスタ、全粒粉ピザがお楽しみ頂けます。是非、ご利用くださいませ！

店名 PIZZERIA CANTERA(ピッツェリア カンテラ)
住所 渋谷区神宮前6-28-6 Q plaza HARAJUKU 9F
電話番号 03-6433-5537
営業時間 [月～金] LUNCH 11:30～15:00 (L.O 14:30)
DINNER 17:00～23:30 (L.O 22:30)
[土] 11:30～23:30 (L.O 22:30)
[日] 11:30～22:30 (L.O 21:30)
定休日 無休
アクセス 東京メトロ千代田線明治神宮前(原宿)駅徒歩3分
当院より徒歩9分
ホームページ https://www.mothersgroup.jp/shop/cantera_harajuku.html
平均予算 ラunch 1,300円 ディナー 3,000～3,500円
席数 100席(テラス 東側25席・西側20席)



甲状腺中毒症とは

伊藤病院 内科 蛭間真梨乃



甲状腺中毒症とは、血液中の甲状腺ホルモン(FT_3 、 FT_4)が多くなっている状態です。中毒症の状態が長く続けば、安静時にも胸がどきどきしたり、汗をたくさんかいたり、いらいらしたり、体重が減少したりといった症状がみられますが、中毒症の程度によっては自覚症状が少ないこともあります。

中毒症は、大きく分けて、甲状腺で甲状腺ホルモンがたくさん作られる「甲状腺機能亢進症」と、甲状腺が破壊されて甲状腺ホルモンが放出される「破壊性甲状腺炎」に分類されます。中毒症の原因として最も多いのはバセドウ病ですが、他に無痛性甲状腺炎、亜急性甲状腺炎、妊娠に伴う一過性甲状腺機能亢進症、甲状腺結節が甲状腺ホルモンを作る機能性結節などがあります。これらの病気は、診察の所見と検査の結果(血液検査、甲状腺超音波検査、シンチグラフィ検査など)を組み合わせることで、正しく診断できます。

治療はそれぞれの病気によって異なります。中毒症の中で最も頻度の高いバセドウ病の治療には、抗甲状腺薬の内服、放射性ヨウ素内療法(アイソトープ治療)、手術の3つがあります。病気の程度、妊娠の希望や年齢など、それぞれの方のライフステージやライフスタイルに合わせ、最適な治療を選ぶのが良いとされています。バセドウ病の方のほとんどは、抗甲状腺薬の内服から治療を始めます。お薬で治療をはじめてから1~3ヶ月程度で血液中の甲状腺ホルモン値は落ち着きますが、短くても2~3年はお薬の量を減らしながら抗甲状腺薬の内服を続けます。 FT_3 、 FT_4 の値が良くなった途端に

お薬を中断すると、今まで良かったホルモン値が悪化してしまいますので、決められたお薬の量を守り、診察の際に徐々にお薬を減らしていきましょう。お薬の副作用として、皮膚にかゆみが出たり、肝臓の機能が悪くなったり、白血球の中の1つである顆粒球が減少したりすることがありますので、治療を始めてから2~3ヶ月は2週間毎の通院が必要です。

未治療や治療を自己中断した場合、中毒症が長く続くことで心臓に負担がかかり、不整脈や心不全などを生じることがあります。また、中毒症の状態で身体に強いストレスが加わった場合、比較的致死率の高い「甲状腺クリーゼ」と呼ばれる状態となってしまうこともあります。場合によっては緊急入院が必要なことがありますので、普段から定期的に通院し治療を続けていただくことがとても大切です。

当院への通院ができなくなってしまった場合は、当院へご連絡ください。お近くの医療機関で適切に治療を続けられるよう、ご相談させていただきます。また治療中に体調の悪化を認めた場合は、無理に我慢なさったり次回の診察予定日を待たずに、早めに当院へいらしてください。

当院1階の医療相談室には専任の看護師が常在しており、病気や治療の方法について詳しくお話させていただきます。病気に関して些細なご相談等がございましたら、こちらにもお気軽にお立ち寄りください。

このコーナーでは、検査結果をお出しするまでの流れや、検査機器のしくみについて、ご紹介してまいります。

細胞診検査

伊藤病院 内科 國井葉
臨床検査室主任 天野高志

正式には「エコー下穿刺吸引細胞診検査」といい、超音波検査で甲状腺の内部を観察しながら、しこりに針を刺して細胞を直接採取し、顕微鏡で調べる検査です。ここでは、当院での検査の流れを説明していきます。

<診察室で>

超音波検査の結果により細胞の検査をすることになった場合、外来で予約をとります。抗血小板剤や抗凝固剤といった出血が止まりにくくなる薬を内服している方は事前に申し出ていただいておりますが、検査当日の禁止事項はありません。

<検査当日>

1. 検査室では、ベッドの上に肩枕を入れ仰向けになっていただきます。(写真1)



写真1

2. 首を広く消毒し、エコーでしこりの位置や大きさ、内部の血流の有無を確認します。(写真2)



写真2

3. 穿刺場所を確認し針を刺していきますが、刺す際は必ず声をかけます。針が刺さっているのは30～40秒くらいです。(写真3)
穿刺は残念ながら、「痛くないです。」とは言えません。腫瘍の硬さや場所によって多少の違いはありますが、採血と同じくらいの痛みと考慮いただければと思います。

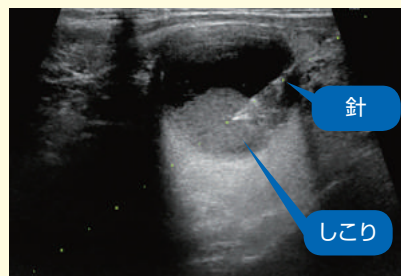


写真3 穿刺中のエコー画像

4. 穿刺後、針を抜いた場所を看護師が押さえて、出血がないかを確認します。また、検査技師が簡単にしこりの内部から細胞が診断に足りるだけ採れているかを確認します(実際には、染色してみないと確実に細胞があるかは分かりません)。
5. 以上の確認が終わると穿刺部位に絆創膏を貼って終了となります。1ヶ所の穿刺であるならば、全部の過程は5分ほどで終了します。
※しこりの硬さ等の条件によっては、数回針を刺すことがあります。また、しこりが複数ある場合や、リンパ節からも細胞を採取する場合にも、数回針を刺すことがあります。

<検査後>

採取した細胞を染色して、細胞を見やすくするプレパラートを作成します。それを臨床検査技師と病理医が顕微鏡で観察して診断します。そのため通常は結果が出るまでに1週間かかります(写真4)。

細胞が十分とれていない場合は診断ができないため、もう一度穿刺をすることもあります。



写真4

伊藤病院 外科医長 松津賢一

細胞診検査の主な目的は、しこりが良性か悪性か区別することです。内部の細胞を採取して調べるわけですから、当然しこりが良性か悪性が判別できるだろうと考えるのが自然ですが、細胞診検査には『できること、できないこと』があります。

① 細胞診検査では診断は確定できない

実は、しこりの内部の細胞はすべて均一とは限りません。細胞診検査はしこりの内部から一部の細胞を採取して顕微鏡で診る検査ですから、その良性・悪性の判定は、あくまでも実際に採取された細胞に対する診断に過ぎません。最終的に診断を確定するためには、手術で甲状腺を摘出して、しこりの内部のすべての細胞を顕微鏡で診る組織検査を行わなければなりません。従って、例えば細胞診検査では良性の細胞しか検出されていない場合でも、手術をしたら悪性と診断されることがあります。細胞診検査は組織検査による最終診断の前の推定診断に過ぎないということです。

② 乳頭がんは高い確率で診断できる

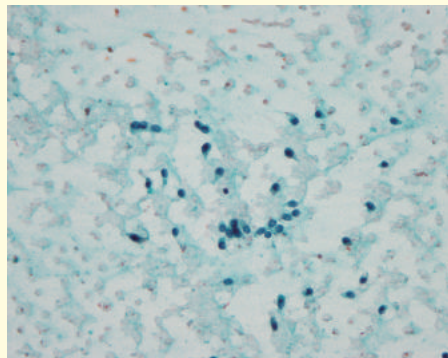
では、細胞診検査をする意味はないのか？というところ、そんなことはありません。甲状腺がんの約90%を占める乳頭がんはその細胞に特徴的な核所見を持つことが多いため、細胞診検査によって高い精度で診断することができます。しかし、まれに良性腫瘍でも、この特徴的な核所見が認められることがあるので、細胞診検査で乳頭がんと診断されたのに、組織検査では良性と診断されることがあります。当院の細胞診検査で乳頭がんと診断された方の99.3%は、組織検査でも乳頭がんと診断されています。一方で、残りの0.7%の方は組織検査では良性あるいは他のタイプの甲状腺がんと診断されています。

③ 濾胞がんは診断できない

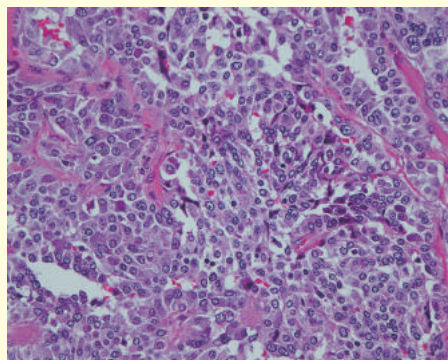
甲状腺がんの約5%を占める濾胞がんは、細胞診検査では診断ができません。理由は、濾胞がんと濾胞腺腫(良性)の細

胞は、基本的に同じ様に見えるからです。両者の違いは、しこりの内部の細胞が周囲組織(被膜や血管内など)に広がっている所見があれば濾胞がん、その性質がなければ濾胞腺腫(良性)と診断されます。この周囲組織への広がりや濾胞腺腫(良性)と診断されます。この周囲組織への広がりや濾胞腺腫(良性)と診断されるためには手術と手術後の組織検査が必要になります。

このように細胞診検査には『できること、できないこと』がありますが、例えばCT検査やPET-CT検査、MRI検査など、他のどんな検査よりも診断率の高い検査と言えます。さらに、超音波検査と組み合わせることによって、高い確率で最終診断(=組織診断)を推定することが出来る大変有効な検査です。



細胞診検査



組織検査

市民公開講座「甲状腺セミナー」を開催しました

さっぽろ甲状腺診療所 事務長 澤井敏樹

北海道は短い春が過ぎ、本州のような蒸し暑さのない、一番の観光シーズンでもある夏を迎えるところです。さっぽろ甲状腺診療所も開院から半年が経ち、多くの患者様にご来院頂き、また多くの医療機関よりご紹介を頂いております。北海道での甲状腺疾患専門診療所の必要性を改めて感じております。

去る4月15日、地域の皆様さらに甲状腺疾患について知っていただくよう、2回目となる市民公開講座「甲状腺セミナー」を開催いたしました。当日は雨模様にも関わらず、札幌市はもとより、遠方からのご参加もあり、700名の会場が満員になる盛況ぶりでした。講師は伊藤公一院長(当法人理事長)はじめ松津賢一外科医長、さっぽろ甲状腺診療所の岩久建志院長、特別講演として、同じビルで診療していただいておりますスリープクリニック札幌の遠藤拓郎理事長の4名が登場しました。そして伊藤院長からは甲状腺疾患全般について、松津医長、岩久院長からはそれぞれ外科、内科の専門医の観点から疾患別の詳しい内容をわかりやすく講演いたしました。遠藤理事長からは睡眠障害と甲状腺疾患の関わり合いについて、ユーモアたっぷりにご講演頂きました。最後は事前に寄せられた多くのご質問にお答えし、なごやかな雰囲気の中、終演となりました。ご参加いただいた皆様、とても熱心にお話を聴いて下さっている姿が大変印象的で、甲状腺疾患に対する関心の高さを実感したところです。いただいたアンケートのご意見からも大変ご好評を頂き、今後も継続して開催することといたしました。

当診療所がこれからも北海道地区の甲状腺疾患治療の一助として、皆様に信頼され、安心して通院して頂ける診療所を目指して日々努力して参りたいと思います。北海道在住のご親戚、ご友人がいらっしゃいましたら是非ご紹介をよろしくお願いたします。



伊藤公一理事長



松津賢一外科医長



岩久建志院長



遠藤拓郎理事長

さっぽろ甲状腺診療所

住所：北海道札幌市中央区大通西15丁目1-10

ITOメディカルビル札幌5F

電話：011-688-6440 FAX：011-688-6439

H P：kojin-kai.jp/sapporo



知識向上のために院内勉強会を行っています

名古屋甲状腺診療所 事務長 高田博史

名古屋甲状腺診療所では、甲状腺の病気や症状、検査について職員の知識向上のために、毎月各部門がテーマを決めて院内勉強会を実施しています。

3月は、橋院長自ら副甲状腺の手術をテーマに、動画や甲状腺の模型を取り入れ、新しい職員にも分かり易く、病気の説明から手術の流れについての勉強会を行いました。

当診療所では、手術が必要となる患者様には、総合上飯田第一病院や名古屋セントラル病院をご紹介し、橋院長が施設へ出向いて執刀しております。そのため、手術について概要は理解していても、具体的な手法や臓器などは写真でしか見たことが無い職員が多いため、今回の勉強会は手術についての理解を深める良い機会となりました。参加した職員からは活発な意見交換があり、実際に手術を受けていただく患者様へのご説明に役立てたいとの声が多くありました。



そして、4月には臨床検査部門が中心となり、超音波検査をテーマとした勉強会を行いました。

今回は臨床検査技師の立場から、伊藤病院発行の「甲状腺疾患超音波アトラス」を見ながら、橋本病、パセドウ病、悪性リンパ腫などが超音波検査ではどのように見えるか、治療前と治療後の超音波画像の変化、甲状腺の重量の変化など、典型的な症例から非常に稀な症例まで数値や画像を交えて分かり易く説明してもらいました。

このような勉強会を今後も継続し、職員一人ひとりが甲状腺疾患や検査についての理解を深めるとともに、医師・看護師・検査技師・医事など様々な立場で意見交換し、患者様の苦痛や不安に一層親身になって対応できるように心がけていきたいと考えております。

名古屋甲状腺診療所(旧 大須診療所)

住所：愛知県名古屋市中区大須4-14-59

電話：052-252-7305 FAX：052-252-7308

H P：kojin-kai.jp/nagoya



高校生インターシップを受け入れました

看護部

伊藤病院 看護部病棟

2月7日～2月8日の2日間にわたり、都立赤羽高等学校の生徒2名の職業体験の受け入れを行いました。

職業体験を通じて、看護への理解と関心を高めてもらい、進路選択の一助として看護体験をしてもらうことを

目標としました。1日目は、各部署の役割や仕事内容を説明していただき、2日目は看護師の仕事内容を説明し、実際にバイタルサインの測定などの体験をしてもらいました。

終了後のアンケートでは、看護師を含む医療職に興味を持つことができたという感想があり、将来の仕事を選択する上で、有意義な経験となったのではないかと感じました。私達自身も他部署を見学させていただき、大変勉強になりました。ご協力をいただいた方々に感謝を申し上げます。



診療技術部

伊藤病院 放射線検査室室長 辻仁

診療技術部では2月1日～2日の2日間にわたり、東京都立葛西南高校の1年生2名のインターシップ受け入れを行いました。

診療技術部は薬剤室、臨床検査室、放射線検査室、臨床栄養室からなるメディカル部門で、2日間と

短い時間ではありましたが、各部署の仕事内容の説明や体験を通じ病院の仕組みなども理解できるよう進めています。

生徒からは、医療の場で患者様やスタッフと接する事でよい体験が出来た、医療の現場を見たいという理由でインターシップに臨んだが貴重な体験が出来、とても勉強になった等の感想を頂きました。ご協力いただきました患者様へお礼申し上げます。

診療技術部では今後も積極的にインターシップの受け入れを行い、学生生活、将来の進路決定の役に立つよう努めてまいります。



東京マラソン2018救護所看護師に参加してきました！

伊藤病院 医療相談室 石井泉

16年ぶりに日本記録が更新され、日本中が歓喜に満ちた東京マラソン2018。12回目となる今大会に医療救護員として参加させていただきました。

国内では年間2,000以上のランニングイベントが開催されておりますが、今大会は抽選倍率が12倍以上となる程の人気です。約36,000人のランナーが新宿新都心の都庁前からスタートし、浅草雷門や東京スカイツリー、銀座、皇居、東京タワーなど東京見物をしながら、ゴールの東京駅を目指して走ります。東京の魅力を満喫出来ると共に、大会に関わる全ての方々と出逢い、「東京が一つになる日」を感じられる大会でした。

そして、東京マラソンは世界一安全なマラソン大会を目指し、ランナーはもちろん、応援される方やボランティア、スタッフも安心して参加出来るように、医療救護の専門家が集まった医療救護委員会があり、事前研修も受けました。そこでは、安全なマラソン環境の準備だけでなく、救護活動を円滑に行うために、医療スタッフ・医療機器などの準備、医療救護に関わる諸団体と適切な連携をとることなど綿密な体制構築に努められていました。

また、2013年ボストンマラソンで起きた爆弾テロ事件を踏まえ、メディカルチーム、警察、消防とも連携した警備、救護体制を強化し、万が一同時に多数のけが人や病人が発生した場合には、最小限に被害を食い止めるために連携し、迅速な対応を行う体制になっていました。

メディカルチームは、医師、看護師、救急救命士、救急隊、トレーナー、ボランティアで構成され、それぞれが救護所、救急車、救護車、ランナーと併走するランドクター、AEDを背負って自転車で巡回するBSL隊、医療器材を持って配置されるモバイル隊に分かれて活動しました。また、ランドクター、BSL隊、モバイル隊がGPSと専用システムを用いて、それぞれの場所を常に救護指令センターで把握するなど、新たな試みがされていました。

初めての救護所での活動でしたが、普段病院で行っている業務とはまったく違う世界であり、現場にある限られた医療器材での迅速な対応が必要だと強く感じました。

当日は肌寒い曇り空でしたが、沿道にたくさんの方々方が声を張り上げて応援していたり、懸命に走っているランナーの方々、笑顔で接するボランティアの方々、大会に関わる様々な人たちと接し、「東京が一つになる日」のお手伝いが出来たことをとてもうれしく思います。

2年後に控える東京オリンピックの開催に向け、医療関係者、ボランティア、各企業、関係する全ての組織が大会を安全に行うという同じ目標の下、協力して取り組むこと、顔の見える信頼関係を築いていくことが必要であると改めて感じる事が出来ました。



がん病態栄養専門管理栄養士を取得しました

伊藤病院 臨床栄養室主任 高橋優香

このたび「がん病態栄養専門管理栄養士」を取得いたしました。

がんは、日本では1981年より死因の第1位になっており、手術・放射線・化学療法などの治療・療養を行う上で、痛みや精神的苦痛で食事が進まなくなることが少なくありません。

伊藤病院で管理栄養士業務を行う中で、入院患者様より「美味しかったはずの食事が美味しくなく」「食事の時間が苦痛」とのお話を耳にし、がん特有の症状や病態を知ることで、がんと向き合い治療を受ける患者様のサポートをしたいと思いこの資格の取得を目指しました。



「がん病態栄養専門管理栄養士」は、がん患者様に起こりうる栄養障害だけでなく、痛み等の症状を事前に把握し対処する方法なども学びます。

「がん病態栄養専門管理栄養士」を取得する過程で、患者様の病態や気持ちに寄り添った食事を提案するためには、栄養バランスだけの知識ではなく治療とそれに伴う有害事象・調理方法や食材の特徴、代謝や消化機能関連などの広範囲の知識を学びました。

がん治療を受ける患者様の食事に対するお悩みが1つでも解消できるよう、栄養相談や資料の作成を行っております。

今後は、チーム医療に携わる医療者として、患者様の気持ちにより添い患者様の「食」に対する喜びを支え続けることができるよう新しい知識の習得を続け、患者様のサポートに生かしてまいります。

2017年の見学者のご紹介

毎年、当院における専門診療や検査手技だけでなく、独自のシステムや各部署での取り組みに関心をお持ちになり、見学にいらっしゃる方が多数おられます。昨年も見学を希望された、40施設78名の方を受け入れました。

甲状腺疾患についての知識をより深めていただく良い機会であり、また、紹介元の先生方についても、当院での診療の実際をご覧ください。信頼関係を深める良い機会にもなっております。

他の記事でもご紹介しておりますが、近年では、職業体験や職場見学などで小・中・高校生が見学にいらっしゃることも増えてまいりました。これから社会人となっていく方々が医療界の仕事に関心をもち、熱心に見学される姿を見て、私達も改めて誇りを持って真摯に取り組んでまいりたいと気持ちを新たにしております。

一部ですが、見学にいらした方をご紹介します。



小野寿子臨床検査技師(愛誠病院)



黒瀬誠先生(札幌医科大学)



古波蔵かおり先生 横浜市立大学附属病院



IMSグループの皆様



大手町さくらクリニックin豊洲の皆様

～ 病棟 ～

伊藤病院 病棟看護師長 二階堂名奈

当院の病棟は病床数60床を有し、主にバセドウ病や甲状腺腫瘍の手術を受ける患者さまや、アイソトープ治療を目的とした患者さまが入院されています。私たち病棟看護師は



「つなぐ看護」のスローガンのもと、患者様を中心としたチーム医療が行われるよう取り組んでいます。毎朝行われるチームカンファレンスでは患者さまの情報共有や看護師間の意見交換を行い、時には医師や薬剤師、栄養士や退院調整看護師を交えた多職種カンファレンスを実施し、より良いケアが行われるよう日々業務に励んでいます。

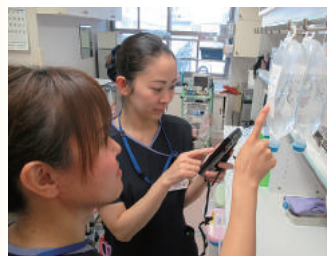
当病棟は看護師33名、看護助手3名で構成され、看護師は日勤と夜勤の交代制勤務を行い、急性期一般入院料Ⅰを取得しています。病院の特性上、新卒者は採用していませんが、様々な他施設での経験があるスタッフが働いています。それぞれの持つ経験を発揮して個性や強みを伸ばし合えるチームを目指しています。

入院や手術、臨時入院などスピーディな対応が必要とされる現場ですが、明るく優しい対応を心がけ、患者さまやご家族が安心して過ごせるような環境づくりに努めています。患者さまからいただく生のお声や、ご意見箱に寄せられるご指摘やご提案を真摯に受け止め、接遇力の向上や業務改善に取り組んでいます。また患者さまからいただく感謝のお言葉を励みにさらにご満足いただけるような改善点はないか振り返りを行っています。

甲状腺を病む方々のために、そして当院を選んで入院して下さった患者さまの期待に応えられるよう、専門的な看護の提供のためのスキルアップや接遇力向上を課題として、今後も日々努力して参ります。



医師と共に患者様の状態や治療方針についてカンファレンスを実施しています



点滴やお薬は間違いのないように必ず複数で確認後に患者様に実施しています



看護助手の業務はシーツ交換など多岐に渡ります

病院からの おしらせ

学会活動

- 第4回 日本医療安全学会学術総会(東京・2/17～18)
北川 亘 特別講演「甲状腺手術の術後出血に対する緊急開創について～その緊急性と対応方法を広く知ってもらうために～」
- 第33回 日本環境感染学会総会・学術集会(東京・2/23～24)
宮崎直子 「適切な血液培養採取に向けた指標の検討について」
- 第14回 東海 ART カンファレンス(名古屋・2/25)
吉村 弘 特別講演「妊娠前と妊娠中の甲状腺機能のコントロール」
- 第18回 茨城内分泌外科学会(つくば・3/3)
吉村 弘 「妊娠時の甲状腺機能のコントロールについて」
- 第40回 乳腺甲状腺超音波医学会学術集会(東京・3/24～25)
國井 葉 特別講演「ウルトラサウンドクイズ 甲状腺」

講演活動

- 一関内科学術講演会(岩手・2/7)
吉村 弘 「一般内科医が診る甲状腺疾患の診療ポイント」
- 桜山 甲状腺がん病診連携セミナー(名古屋・2/23)
鈴木章史 特別講演 「甲状腺分化癌治療戦略～lenvatinibを中心としたTKI management～」
- LENVIMA Meet the Expert in YOKOTE(秋田・3/9)
長濱充二 特別講演「甲状腺がん治療における最近の話題と分子標的薬治療の現状 -レンビマ®を中心として-」
- LENVIMA Meet the Expert in Yamagata(山形・3/10)
杉野公則 特別講演「甲状腺分化がんに対するレンビマ治療の問題点と知見 -伊藤病院での経験例から」

2018年 臨時の外来診療休診日について

2018年 臨時の外来診療休診日
6月28日(木)～29日(金)
(日本内分泌外科学会総会のため)

下記学会中は医師の代診・休診が多くなります

10月25日(木)～26日(金) 日本甲状腺外科学会学術集会
11月22日(木)～24日(土) 日本甲状腺学会学術集会

このコーナーでは、当院の診療連携施設であるやました甲状腺病院の情報をご紹介してまいります。

医療法人福甲会 やました甲状腺病院 理事長・院長 山下弘幸

やました甲状腺病院の山下です。今回はIT時代の医療サービスについてまとめてみました。少し頭の痛い内容もあるかも知れませんが、御了承ください。医療は治療成果の提供だけでなく、患者さんに満足して帰宅してもらうことも重要です。満足度は相対的なものなので、人間の欲望と同じようにしだいに基準が高くなる傾向があります。患者さんだけに限ったことではありませんが、便利な生活に慣れてきたせいか、ちょっとした不便や不都合に耐えられない方が増えているように感じています。コンビニでは24時間ほぼ必要なものが手にはいり、アマゾンその他インターネットを介して注文すれば翌日に配達してもらうこともでき、フリーマーケットで不要になったものを簡単に売り欲しいものを安く購入できる世界になってきたのも影響しているのではないのでしょうか。デジタル時代ではいろんな情報が無料で提供されます。例えば、以前では旅行したい土地の情報を調べるには案内本を購入する必要がありましたが、今ではインターネットで簡単にしかも無料で得られます。世の中があまり費用をかけずに便利な方向に進んでいくのを止めることはできませんが、病院に対しても同じような感覚を持つ方もおられます。病院はその役目より、基本的には不便・不自由なところですが、コンビニ受診が社会問題になっていますが、これも同じ流れです。平日は休めない、日中は用事がある、日中病院に行くと長く待たされる、等の個人的な理由ですが、すぐ診察してもらうために救急車を呼ぶつわものもいます。こんな時代に医療者としてどう対応すべきか、それぞれの医療機関が提供している診療内容により少し違ってきます。

さて、デジタル化がすすむなかで患者さんの利便性はどうなっていくのでしょうか？現在でもネット予約、電子掲

示板(診察順番など表示)や自動精算などで、以前に比べて非常に便利になってきています。さて、本年4月の診療報酬改定より遠隔診療に保険点数が算定されることになりました。これはテレビ電話やスマートフォンアプリなどを通して医師の診察を受ける制度です。今までは対面診察しか許されていなかったのがかなりの進歩です。しかし、甲状腺の診療では基本的に血液中のホルモン検査を伴うことが多いので、非常に限られてきます。現在の環境で利便性を求めるとなると、診察・検査が時間内(なるべく短時間で時間どおりに終わることや検査だけ受け、結果説明や処方テレビ電話やチャットなどを介して行うということになるかも知れません。そうなると結果説明の時間予約が必要となり、その対価(医療機関は予約に対して費用を独自に決めることができる)を求められるかもしれません。デジタル時代ではいろんな情報が無料で提供されると前述しましたが、医療サービスではそうはいかないようです。院内滞在時間を短縮させるために予約枠や検査・診察手順をAIでのコントロールなどもすすんでくと思いますが、患者さんの努力(診察時に要領よく症状を伝えるなど)も重要です。最後に、利便性の向上はあるにせよ病院には少々の不便・不自由はつきものと達観し、治療に専念していただければ幸いです。



医療法人 福甲会
やました甲状腺病院

〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1-8
<http://www.kojosen.com/index.html>
TEL : 092-281-1300 FAX : 092-281-1301

明治神宮参拝

当院では、患者様と職員の安全・健康を明治神宮で祈願することが毎年大切な病院行事の1つになっております。今年も4月に2班に分かれ、職員全員で祈願してまいりました。

当院の位置する表参道は、明治神宮の参道として神宮造営にあわせて1919年(大正8年)に完成しました。いまは大きく育っている榊も、戦災によってほとんどが焼けてしまい、戦後に植えなおされたものです。明治神宮は初詣参拝者数日本一としても知られておりますが、これからの季節も6月に見頃となる花菖蒲や、加藤清正が掘ったという伝説が残る、湧水の井戸「清正井」があります。都会のオアシスで涼みながらご覧になってはいかがでしょうか？



渋谷・表参道Women's Runに参加しました

3月25日(日)に第8回 渋谷・表参道Women's Run が開催されました。

この大会は、名前の通り女性限定のマラソン大会で、代々木公園をスタートし、渋谷、表参道周辺10kmがコースとなっています。毎年、当院もケガ・急病の方の受け入れ施設として大会に協力しております。

今年は当院から8名が参加し、ちょうど5kmの折り返し地点となる当院前では、応援団がランナー達に声援を送りました。

当日は天候にも恵まれ、晴れて暖かい天気でした。当院参加者は全員無事完走、充実感と達成感を楽しみました。



Voiceへのご意見をお寄せ下さい

いつも伊藤病院広報誌「Voice」をお読みいただき、ありがとうございます。

Voiceは、平成15年の創刊以来、取材から記事の執筆まで、すべて院内のスタッフによる手作りで発行しています。年4回発行しておりますが、ご病状が落ち着いて来院間隔が広がった患者様から、前号のVoiceがほしい、というお話を伺うこともあり、スタッフ一同、毎号気持ちを引きしめて取り組んでおります。

これからも、より多くの方々にお読みいただけるような誌面を作ってまいりますので、皆様からのご意見、ご要望を、ぜひ院内1Fに設置のご意見箱にお寄せください。

今後とも、『Voice』をよろしくお願いたします。



表紙no写真

代々木公園 しあわせの像

しあわせの像は、株式会社電通が創業70年を機に、放送功労者の顕彰を行ったことを記念して、昭和46年に制作されました。父と母、そして小さな子供によって人生のしあわせを象徴した像となっています。とりにある石碑には、「放送は人類英知の所産であり社会と個人の生活へ空からふりそそぐ文化の慈雨である」との言葉とともに、功労者のお名前が記されています。



撮影当日も、代々木公園では親子の銅像が見つめる中、ピクニックやランニング、のんびりとくつろいでいる方など、たくさんの人々が思い思いの時間を楽しませていました。
(レトウル・熊野)

編集後記

日増しに暑くなり、そろそろ蝉の声も聞こえてきそうですが、皆様お変わり有りませんか？

今回のVoice夏号も楽しんでいただけたでしょうか。何か皆さんのお役に立てる情報があれば幸いです。

今号の特集として伊藤病院周辺にある夏にピッタリのアイスクリーム屋さん取材して参りました。その他にも甲状腺の病気や細胞診の流れに関する記事なども取り上げています。今後も皆さんの甲状腺に関する疑問や興味を引くVoiceを作っていくと思っています。次号も楽しみにお待ちください。
(中村)

甲状腺疾患書籍のご案内

★いずれの書籍も伊藤病院1F売店で販売しております。ぜひ、ご活用ください。



「患者のための最新医学
バセドウ病・橋本病・
その他の甲状腺の病気」

監修：伊藤公一
定価：1,300円(税込)
発行：高橋書店



「名医の図解
よくわかる甲状腺
の病気」

著者：伊藤公一
定価：1,400円(税込)
発行：主婦と生活社



「ウルトラ図解
甲状腺の病気」

監修：伊藤公一
定価：1,620円(税込)
発行：法研



新版「甲状腺の
病気の治し方」

監修：伊藤公一
定価：1,404円(税込)
発行：講談社

新刊



「よくわかる最新医学
甲状腺の病気」

監修：伊藤公一
定価：1,512円(税込)
発行：主婦の友社



「図解 甲状腺の病気が
よくわかる
最新治療と正しい知識」

監修：伊藤公一・高見博
定価：1,510円(税込)
発行：日東書院

発行 2018年6月1日発行 第62号 伊藤病院広報誌委員会

ITO
HOSPITAL
伊藤病院

〒150-8308 東京都渋谷区神宮前4-3-6

TEL : 03-3402-7411

FAX : 03-3402-7415

URL : <http://ito-hospital.jp>